1 3期目就任の所感について

市長

本日、第39代横須賀市長に就任をいたしました。就任初日ということで、3期目の所感についてお伝えをさせていただきます。私は6月22日の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様からご支持と、ご支援をいただき、本日より再び市政をお預かりすることになりました。選挙期間中は私自身のことで、市民の皆様の信頼を損ない、多くの厳しいお声をいただくとともに、不安とご心配をおかけしましたが、改めて皆様からいただいた多くのご期待に沿えるべく、これまで以上に市政に邁進して参りたいと思います。本日から気持ちを新たに、全身全霊を尽くして、横須賀復活にむけた集大成としてこれからの4年間を挑んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。さて、私の目指している街の姿は活気に満ちあふれていたころの横須賀を復活させること。そして、多様性を認め合い、互いに慈しみあえる街の「誰も一人にさせないまち」です。そのために、福祉の充実と、経済の好循環を両輪として、これまで3つのまちづくりのグランドデザインのもと、様々に施策を展開してまいりました。コロナ禍で足踏みもありましたが、ようやく施策の成果が、目に見える形で現れはじめ、市民の皆様からは、「横須賀が良くなった。元気になった。」というお声をいただけるようになりました。さらに、今年地価公示も、ついに横須賀市全体で、上昇基調のトレンドとなりました。私は、この流れを、決して止めてはいけなと思っています。せっかく、ここまで横須賀の復活の兆しが見えている中、この流れは決して止めてはいけないと、選挙期間中、ずっと、訴え続けてまいりました。そして、何よりも浦賀の再開発と、大矢部弾庫跡地の整備は、是非ともやり遂げたい、成し遂げたいと、強く思っています。つねづね申しあげていますが、浦賀の再開発が、横須賀復活の最後のピースであり、これが完了しなければ、画竜点睛を欠く状態だと思っています。浦賀にかつての活気を取り戻すべく、「第2の開国」をテーマに、海と歴史と街とを存分に盛り込んだ、素晴らしい施設にしたいと思っています。大矢部弾庫跡地についても、現在、三浦半島4市1町の連携を進めている中で、三浦半島の歴史の礎とも言える三浦一族に、改めて光を当てるという意味でも、是非、同地に残された自然・文化・歴史を十二分に感じることでできる施設にしたいと考えています。また、目下、市民の方の最大の関心事とも言える、人口減少にも果敢に取り組んでまいります。現在の横須賀市の人口減の多くは自然減であり、社会減については、これまでの施策の効果で大幅な改善がみられ、特にファミリー層では、プラスになっています。東京・横浜からの移住者も多く、これは、多くの方に横須賀で子育てをしよう、未来志向で、横須賀を選んでいただいている結果だと思っています。正直、大企業が集結している東京・横浜に近いという地政学的な事情からも、人口減少に対する特効薬はなく、これまでの成果を信じ、多面的にやってきた施策を、引き続き、確実に実施していくことが肝要だと思っています。実際に、横須賀に移住した主な理由の一つに、複数回、観光などで訪れたというアンケート結果があります。そのため、まずは観光などにより横須賀に触れてもらう機会を増やし、その中で横須賀ならではの、横須賀にしかない魅力に気付いてもらい、移住につなげることができればと思っています。そして、現在、住んでいる方に対しては、横須賀に住んで良かったと思っていただけるよう、引き続き、子育て、教育、福祉、健康、地域コミュニティなど、広範な意味での福祉の更なる充実を図ってまいります。冒頭にもお伝えしましたが、私の目指している街の姿は、活気に満ち溢れていたころの横須賀を復活させること、そして多様性を認め合い、互いに慈しみあえる街である「誰も一人にさせないまち」です。そのために、これまで福祉の充実と、経済の好循環を両輪

として、様々に施策を展開してきました。経済的裏付けなしに、責任ある福祉の充実は図れません。今後も、これまで実施してきた様々な施策を継続していき、一人でも多くの方に、横須賀に住んでいてよかったと思ってもらえるように、尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

■質疑応答

記者

今回、選挙で改めて4年という任期が確実に変わったわけですが、これによって新たにはっきり見えてきたもの、いまビジョンとして掲げられているものがあれば、お教えてください。

市長

見えてきたものというより、やはり、私の訴えてきたグランドデザインの継続的な実現といえますか、完成を、この4年間で目指していきたいと思っています。この8年間の歩み、流れは間違っていなかったと思います。さらに継続して発展をさせていくということが全てであると思っています。

記者

経済の好循環とお話がありました。それに関連して日産の追浜工場について伺います。ホンハイとの連携であるとか、いろんな報道がなされています。先日、コメントをいただきましたけれども、その後、日産側から何らかの説明はありましたでしょうか。また、ホンハイという海外の企業との連携ということで、そのあり方について、市長のお考えがございましたら教えてください。

市長

その後、日産さんからは連絡をいただいておりますが、この前お話ししたように、ホンハイ精密工業との電気自動車分野での協業については、日産自動車から発表したものではないという報告をいただきました。できる限り、追浜工場の今後については、不安を感じる市民の方が、1日も早く安心していただけるよう、日産自動車さんには、より良い方向性を可能な限り速やかに示していただきたいと考えていますとお伝えしております。私は、あらゆる選択肢があってもいいと思っています。できる限り横須賀市民、追浜の住民の方たち、また従業員の方の不安を一刻も早く解消していただきたいという思いだけです。

記者

このたびの市長選で、得票率を見ると、市長が52%、他の候補が48%で、二人に一人は市長にノーというように突きつめたと思います。70代、そして長期10年入っていき、それから、いま、捜査対象にもなっていることを考えると、これまで以上に謙虚さが求められる今日からの3期目だと考えております。それに関して自分に課していくものがあるのでしょうか。例えば、自分で車を運転しない、あるいは、より職員の話聞いて、トップダウンを控えて、より聞き役に徹する、あるいは市長室のフロアをもっと市民に開放していくなど、市長にノーと言った方に、より気を配って、謙虚にならなければ、この市は一丸になれないと思います。何か自ら自分に課するようなことがあるのか、お聞きしたいです。

市長

今のお話を聞いていて、もっと開放的なのというお話がありましたが、リスクマネジメントからすれば開放するべきではないと私は思っています。これは以前から、様々な議論の中でそれをお伝えしてきた話であります。それから、謙虚ではない、トップダウンとのことですが、私はかなり多くの皆さんの話を聞いているつもりです。その上で、これまで働いてきました。謙虚という意味はよ

くわからないのですが、様々な方たちの話を聞き、職員の話も聞いているつもりです。ノーという方たちが何%とは、どういう意味で言っておられるのか、私には理解できないのですが、私なりに、謙虚にならなくてはならないことの一つは、いろいろなことをお伝えしていなかったということです。様々なこと、私がやっていることを、どういう考えで、どのようにし、何をするかということ、市民の皆さんにお伝えをしていなかったということ、今度の選挙でよく理解したので、様々な場面で、できる限りお伝えすること、どのような手段、どのような方法なのか、私にとって謙虚であるということならば、そのようなことは、していきたいと思います。

記者

自分の支持者に伝えてもダメだと思います。ノーと突きつけた方々、支持層に、どうやってその自分のやることを伝えていこうと思っているのでしょうか。

市長

私は、私の政策をやってきたわけで、イエスという方たちに対してお話をするわけです。ですからノーと言われる方は、おそらく私がやっていることが伝わっていなかったと理解しています。

記者

どうやって伝えていくのでしょうか。

市長

様々、SNS などがあるでしょう。広報のやり方があるでしょう。考え方があって良いでしょう。様々な方法を使っていかなければいけないと感じています。

記者

今までも、広報とか SNS とか定例記者会見を開いている場面がありました。では、どうして伝わってこなかったのでしょうか。

市長

それはわかりません。もっともっと考えてみなければ、わからないと思います。

記者

記者の質問に対してのそういう対応に謙虚さがない、何か少し偉そうと感ずるので。

市長

自分を偉いと思っていない。その伝え方がまずかったのではないか、伝え方、伝えの仕方を言っています。

記者

48%は市長ではない人に入れたわけです。それに対して伝えていかなければ、市は一体になれない。一番多かったのは、市長であることは間違いないのですが、市長の仲間だけでやっても、市は一体になれないわけであって、横須賀市が良くなるためには、そういう人たちに、どうやって市長は伝えていこうと思っているのですか。

市長

私のやっていることが伝わっていなかったとお伝えしているのです。それがすごく大きかった。福祉に関する様々なことをやってきた。その伝え方、細かく皆さんにお伝えできていなかった。だか

ら、これから考えていかなければいけない、そういうお話をしているのです。

記者

その方策は、また来月以降のこのような会見でお聞きすることができるということですね。

市長

そのようなことをこれからやらなければいけない。外部の人員を投入しなければいけない。我々、公務員というのは、伝えることに慣れていません。仕事をやっていけば、全てわかってもらえるというところがあるのです。

記者

それは、また来月以降ということで。それからもう1点、この前の減給議案の記事を書いたときに、市の幹部の方から僕に問い合わせが入ったので、再度、この前の車の違反についてお聞きします。国道16号、田浦の手前で、湘南信用金庫の田浦支店があります。そこで左斜めに入っていく道がある。それは、横須賀方面から行けば一方通行だと思います。市長がどこの標識を、どう間違ったのか、具体的に教えてもらえますか。

市長

一方通行と間違えて入ったのです。7時から8時半の時間外のところを入れてしまった。私は、その時間に入ったこと、使ったことはありませんでした。7時から8時半までの間、その時間は入ってはいけませんという地域だったのです。

記者

あそこは、入るところは特に時間の指定がなく、出るところが、左折の7時から9時ではなかったのでしょうか。

市長

そこではなく、入るところにありました。私は見落としたのですが、7時から8時半までの間は、進入禁止という表示があったのです。そこを私は見落としてしまったということです。

記者

横須賀方面から逗子方面に抜ける細い道ですね。そこに一方通行の標識があって、その補助標識に7時から8時半とあったと。横棒の進入禁止ではなくて、一方通行の標識があって、その下に補助標識で7時から8時半とあったのですね。

市長

この標識です。7時から8時半の時間帯が入れないのです。

記者

行き先は、その16号の対面にある整骨院だったのですね。

市長

対面ではなく裏です。個人的な問題なのですが整骨院です。

記者

そこに入ったということは、その出口から右折しようと思ったんですか。

市長

終わって、出てきて、帰るときです。横横に乗って帰るときには必ずそこを通ります。たまに行くときには、その時間帯ではなく8時から9時なのです。1カ月に一度くらい。妻が運転しているときもあります。たまに行くときにはいつも8時から9時なのですが、時間帯が早く終わった。それで、いつもどおりに戻ったときに、当然知りませんでしたから、いつもどおり入ったということです。

記者

参議院選挙についてお伺いします。選挙中ですので、特定の候補のお名前、政党の名前は出しませんが、各政党で、外国人に対して、非常に不当な差別的な言動や、排外主義的な言説が広まっているように感じます。昨日、黒岩県知事も話されていて、そういうことについて、誰も差別をしない横須賀市を押し進めてきた上地市長にとっては、今回どのように見ているのかを聞かせていただけますか。

市長

すごく難しいです。世間の問題を含めて、外国人をどうするかという国政レベルの話と、私たち自治体レベルでどう考えるかということは、非常に難しく、悩んでいます。個人的には差別のない世界を作りたいと思っていますが、国政レベルについては、どのようになるのかという推移を見守っていきたいと思います。各地域で事情が違うと思います。そのあたりを見極めながら、私はもちろん、「誰も一人にさせないまち」を目指していますので、差別のない世界を作りたい、そこをお伝えしてやっていきたいと思うのですが、現実的、具体的に変わったときに、果たしてどうなるかということとは、今すごく考えているところです。

記者

特に、今回、労働者や移民の受け入れ反対という主張が、結構ある中で、上地市長はネパールの人材受け入れについても取り組んでいます。

市長

おっしゃるとおりで、ネパールの方たちに来ていただくという意味では、もちろん差別があってはならないと思っています。様々なこと、いろいろな問題があります。少なくとも私は、横須賀ではそうはさせたくないと思っています。

記者

共生社会というところは、やはり強くメッセージを出していきたいということでしょうか。

市長

出していきたいと思っております。

記者

先日、久里浜のGNF-Jで火災がありました。幸い放射線流出とか怪我人等はいなかったのですが、ウランを扱う管理区域で初めての火災であったとのことでした。まずこの出来事に対する所感を教えてください。また、年に一度、防災訓練をやっていると思います。危機管理上、市の対応を含めてどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

市長

まずは、あつてはならないことだと理解しています。しっかりとした管理、しっかりとした厳重な管理を、是非、当該企業にお願いしたいと思っています。今、様子を見ている状況ですので、今後の話し合いの中で、しっかりとした管理をしてほしいとお伝えしていきたいと思っています。

記者

年一回の防災訓練は、今回の火災で何か役に立った、あるいはやっぱりちょっとここに不備があったなど、何か感想はございますか。

市長室長

今回の件につきましては、GNF-J 様が、処理上としては、軽微な事故だったということで処理させていただいております。対応につきましては、市の緊急の駆けつけにつきましても、消防の対応につきましても、問題なかったと思っております。しかし、こういった事案があったということで、これからは、このような事案すらも生じない対応を協議していかなければならないと思っています。

記者

市として報告書みたいなものは求めているのでしょうか。

市長

求めていません。

記者

結果等を含めて、市民に説明するような場など、そういうものはあるのでしょうか。

市長室長

現状では、市からは今のところ考えておりません。市としては GNF-J 様に対して、しっかりとした今後の対応など、説明を求めたいと思っております。それをどこまで発表するかは、GNF-J 様と相談をさせていただきたいと思っております。

記者

説明を求めたいというのは、非公式の場でしょうか。あるいは、要望書を出すなど、そういうものなんでしょうか。

市長室長

要望書という形ではございませんけれども、こういったことが発生しましたので、今後このようなことがないように、今回の原因究明などを事務レベルでお願いしたいと思っております。

記者

事務レベルで済ます話ではないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

市長

私も、公式にどのようなことがあったのかと説明を求めたいと思っております。

記者

よろしくお願いします。

記者

告示日の前日以降、自ら車を運転していることはあるのでしょうか。

市長

ありません。

記者

車検なしの自賠責なしならば、通常、一発免停なります。処分が下りるまでは運転するお考えはあるのでしょうか。

市長

いやまったくありません。まったく運転していません。それが当然のけじめだと思っています。処分はまだですが、けじめとして運転はしません。

記者

処分が決定するまでは運転しない。

市長

処分が決まるまでは運転しません。今後もしできる限り運転しないようにしていきたいと思います。